

令和4年度 第1回

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

宇治市

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

<開催年月日> 令和4年8月4日(木曜日)午前10時から午前11時40分まで
<開催場所> 宇治市生涯学習センター第2ホール

<出席者>

多田 重光	公益社団法人宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事
平井 恭子	京都教育大学 教授
真山 達志	同志社大学 教授
稲垣 勝彦	京都府山城広域振興局 局長
小林 幸広	株式会社京都銀行 宇治支店長
藤田 治久	株式会社京都新聞社 南部支社長
小長谷 敦子	公認会計士
寺川 徹	市民公募委員
日野 真代	市民公募委員

計10名

<事務局等>

松村 淳子	宇治市 市長
荻野 浩造	政策企画部 部長
大北 浩之	政策企画部 副部長
佐々木 卓也	政策企画部政策戦略課 課長
藤丸 博克	政策企画部政策戦略課 係長
服部 和夫	政策企画部政策戦略課 主任
辻 優貴子	政策企画部政策戦略課 主任

計7名

<会議次第>

1. はじめに
2. 委嘱状の公布
3. 市長挨拶
4. 正副委員長の選出
5. 開会
(議事)
・第2期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価報告書(案)(令和3年度事業)について
6. 閉会

<会議内容>

1. はじめに

《事務局より挨拶》

《欠席委員の報告》

2. 委嘱状の交付

3. 市長挨拶

4. 正副委員長の選出

5. 開会

(議事) 第2期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価報告書(案)
(令和3年度事業)について

《委員長より会議公開・傍聴の連絡》

《資料に基づき事務局から説明》

委員長)ありがとうございました。それでは、ただいまの事務局からのご説明に関しまして、ご意見やご質問ありましたら、お願いいたします。

委員)7ページのふるさと応援寄附件数ですが、令和2年度から3年度にかけて倍増していますが、この要因は何か教えていただけますか。

事務局)ふるさと応援寄附金の増加の要因ですが、令和2年度にはポータルサイトを4つに拡充いたしました。令和3年度は引き続き4つに拡充したサイトで積極的に発信しまして、ふるさと応援寄附金の返礼品を様々拡充したところです。そういった広報や、サイトを通じたPRが功を奏したこと、コロナ禍でふるさと納税の認知がかなり進んでいるということもあり、こういった状況になったと認識しております。

委員)5ページの人口動態について質問させていただきます。表3には年齢別に増減がありますが、地域別の集計はされていますか。東西のどちらが17歳までの人口が増えたとか、ありますか。

事務局)宇治市内の地域別の詳細な移動数は手元に数字がございませんが、例えば転出された先についての数字は認識しております。転出ですとやはり都市部、例えば京都市、大阪市、関東等が傾向としては多いかと思えます。宇治市に転入される方は、京都府内など近郊からの転入が多いと把握しています。

委員)ありがとうございます。できれば、学校が充実しているので低年齢の人が増えたとか、通勤に便利な地域は18~23歳の人が減っていないとか、もしそういうことが分かれば有り難いなと思いました。

事務局)この間宇治市では子育て支援施策に重点的に力を入れておまして、0~17歳のお子様の転入が増加しております。一方で24歳以降、20代、30代の転出が多くなっていることも続いていますので、そういった方々が宇治に残っていただくような、産業支援や若者の雇用の創出に力を入れていかなければいけないと認識しております。一方で若者だけでなく、学校などの教育面、子育て支援にも引き続き充実を図って、親御さん世代も宇治にずっと残っていただいて安心して子育てしていただけるようなまちづくりを目指していきたいと考えております。

委員)今、お話にありましたような、安心して子育てをしていくということはとても大事だと思っております。17歳までの人口が多いのは非常に良い事で、宇治市がその世代が安心して子育てができる環境を、重点的に頑張っておられる成果が表れていると思います。その一方で少し気になるのが26ページの家庭学習の定着度、小学校6年生と中学校3年生が全国平均よりも10ポイントほど少なくなっている点です。ギガスクール構想の影響で、1人1台のタブレット端末が子供達に行き渡っており、モノの環境は整ったとして、例えば子供の間で非常に広がっている新型コロナウイルス感染症の影響による学級閉鎖などの有事の時にも学びの機会を止めないという、家庭にいても学習が継続できる、授業を受けられるような環境を保障するためには行政の支援が必要かなと思えます。家庭によってはタブレットはあるけれども、Wi-Fi環境が整っておら

ず、十分な学習ができないような状況をどのくらい支援しておられるのか。家庭の貧困、子供の貧困が原因で、教育格差が生まれるようなことが起こっていないかという心配があります。どういう環境の子供でも、等しく学ぶ機会が損なわれないという支援を行政でどのように行っているかすごく気になっていて、数値だけ見ている中では、タブレットは行き渡っていますが、その質がどのように担保されているか具体的に教えていただきたいなと思いました。

事務局) 数値的にはオンライン、タブレットの環境整備は今整えていって充実を図っているとありますが、決してそれだけで充足できるとは考えておりません。今、タブレット端末を持ち帰りいただいています、そういった中でも平等に、公平に使っていただくことはもちろん、一方で教員へのICTの利活用の知識についての支援を行いつつ、教員が色んな生徒さんに平等に学習支援を行えるような体制作りを進めております。やはり家庭学習の定着度につきましては、なかなかタブレット、オンラインだけではできないものとも思いますので、引き続き学校での対面の支援体制や、スクールサイエンスサポートなどにより、様々な角度からお子様の支援ができるように進めて参りたいと考えております。

市長) 少し追加させていただくと、先程のWi-Fi環境については、ご自宅でその環境が整っていない方もおられるのは事実ですので、必要な方にはモバイルルーターを貸し出して持ち帰りいただくという環境を既に整えております。自宅でネットを活用して勉強するということには子供たちも慣れていないので、自宅で勉強できる環境を少しずつ広げていく段階であるのが今の状況です。

委員) 子育てサークルを立ち上げたんですが、参加してくださっている親御さんの意見を聞いていると、お仕事の関係で宇治に引っ越してこられた方が半分以上いらっしゃるんです。そういった方に「宇治はどうですか?」と聞くと、「宇治の人はみんなやさしい」というのが皆さん共通して出てくる第一印象の言葉で、「これからも宇治に住み続けてくれる?」と聞いたら、「どうしようかな、住み続けたいけど...」という感じで、どうしてもお仕事の関係とか、子育ての環境とか、意識の高い方はどういう学校に子供たちを入学させたいかという事をすごく感じておられると実感しています。宇治では宇治学というものを総合学習で取り入れていると伝えると「すごい」と言っておられたのですが、子育て世代に郵送されている冊子の中に宇治学の情報が入っているのが気になったので、どういった冊子を配布されているのか教えていただきたいと思ったのが1点。

2点目ですが、宇治橋通り商店街で修学旅行生を時々見かけるんです。ついつい「どこから来たん?」と話しかけてしまうんですが、街歩きしながら色々勉強している感じなんです。SDGSにからめているところもあったし、修学旅行生がどういったとこ

ろから、どういう目的で宇治に来ているのか、もし分析されていたら、今後宇治に修学旅行に来た学生さんが、もしかしたら将来、宇治で仕事しようとか、暮らしてみようと思ってくださるかもしれないので、そういったところにどういうPRをされているのかなという事が気になったことです。

3点目ですが、19ページの市民参画・協働職員研修の参加人数が令和2年度が30名だったのが、令和3年度には130名と人数がすごく跳ね上がっていて、すごいと思ったんですが、宇治市の中に市民協働の部署がやっとできたところで職員の皆さんも色々勉強されていて、市民の私達も市民協働について勉強したいと思っているので、そういった場をこれから考えていただけるのかを聞かせていただけたらと思いました。

事務局) まず、宇治学については令和3年度には宇治学副読本を小学校4年生と中学校2年生に配布しております。修学旅行生が宇治に来られている理由ということですが、正確な理由は把握しておりませんが、海外に修学旅行に行かれる学校もある中で、宇治を選んでいただいているのは、宇治の伝統やお茶文化などを、修学旅行の一つのポイントとして選んでいただいているのかと思いますので、宇治の伝統文化であるお茶や、歴史をこれからも積極的に全国に発信していくことが必要かと思います。

19ページの地域コミュニティについては、令和3年度が130名で、100名増加しましたが、今年度から市民協働の組織もありますし、ワーキンググループを職員の中で行ってありまして、職員研修、ワークショップも積極的に行って、職員がそれぞれ市民さんとどういつながりを持って、自ら積極的に出向いて、市民協働をどういった形でできるのか、研修等も行って、その参加人数が延べ100名増えたところです。

事務局) 補足させていただきます。子育て情報誌ですが、元々、0~3歳の情報誌ということで、幅広い情報を載せるものを行政の手作りで作っていました。そこに広告を入れる中で冊子化をして、今年は持ち歩けるような小型版です。宇治市は割と早い段階から幼稚園に行かれる方、サークルに行っておられる方、保育所をどうしたらいいんだろうという方に向けた色々な情報を1つに集約するということに取り組んでありまして、紙面の充実もしております。宇治学のような宇治市独自であるという観点での情報発信を紙面でどのように案内するかを含めて調整して工夫していきたいと思います。

市長) 情報誌関係はターゲットが就学前ということで、宇治学は入っていないです。小学校がどういう特徴があるということも入っていないので、そういった視点のもと、検討させていただきたい。修学旅行生で宇治に宿泊される方は分析がしやすいんですが、他でお泊りになって宇治にお越しになる学校については、どういう形で分析していくかが非常に難しいので旅行会社に聞くなど方法を考えてみます。ご指摘の中身はすごく良い要素が入っていると思いますし、「修学」ですので何かを学んでいく、伝統を思ってきていただく部分と今時の学びもあると思いますので、京都市内にお越しになる

方はたくさんいらっしゃいますので、提携しながら分析するなど、少し考えてみたいと思います。市民協働、市民参画は、第6次総合計画の大きな柱として持っていますので、市の職員が学んでいくのはもちろん、市民の方々に参画していただきやすい環境をどういう形で作っていくかがとても大事だと思っております。今年はいくつかのテーマの中で、特に防災タイムラインを地域で作っていただくというものや、あるいは子育ての関係で、モデル地域で子育て世代が参画するようなものなど、市民の方に働きかけている中で、参画していただきやすいテーマがあるのかなと思っています。今までからやっております食育、健康アライアンスもそうですし、高齢者の方がお集まりになってラジオ体操されるのも一つの市民参画で、そこから地域の公園を掃除しようかというつながりになったり、子どもとして市民の方々が参画していただくテーマをどうするか勉強しているという状況だと思っておりますので、市民の方への講義、研修会という形ではなく、一緒に行動していただくことで取り組んで行けたらと思っております。

委員) 宇治学って本当にすごいと思っているので、就学前の親御さんにもぜひ知っていただきたいと思います。修学旅行生が宇治の歴史や文化を学ぶだけでなく、新規課題やSDGsにからめて、宇治に来ていることにすごくびっくりしたので、そういう観点からアプローチができれば面白いなと思ったし、そういった分析もできる範囲でしていただけたらありがたいなと思いました。最後に協働は、先日、宇治市健康づくり食育アライアンスうー茶で、市民会議をさせていただきまして、参加して下さっている77団体のお一人お一人が熱い思いを持って下さっているんですが、健康づくりと食育と言うテーマだと、横軸でいけるので、様々な方が参加しやすいという事があると思うんです。防災や健康づくり、食育というものは、市民がきっと参加しやすいと思うんです。私達が参加しやすいテーマで一緒に何かできるということ、私自身も何かしたいと思っています。この間の市民会議の時に出た意見を一つだけ紹介させていただきたいのですが、健康づくり・食育と、観光をコラボできないかという意見が出たんです。確かに宇治にはたくさん健康づくりに携わっている方がいらっしゃって、宇治茶もあって、歴史のまちでもあって、そういうところをからめたら面白いんじゃないかという市民の方の意見が印象に残っております。そういった仕組みづくりを含めて一緒にしたいと思えますし、逆に行政の方の動きや、他の委員のお話を参考に聞かせていただけたらありがたいと思います。

委員) 修学旅行の部分ですが、6月頃がピークを迎えていますが、マックスから比べると8割程度、というような数字です。京都府全体で修学旅行が落ち込んでいるという事で、京都府観光連盟と京都市、府と一緒にSDGsを踏まえた教育部門のあり方という新たな誘致作戦というものを徐々に行っております。旅行エージェントへの営業など、頑張っていきたいなと思っております。

質問は2点ございまして1つは全国魅力度ランキングが27位まで上昇したと、宇治ブランドの強化等の部分について努力をされていますが、実際にどの部分が突出して、もしくはプラスマイナスで27位になったのかということをもし調べておられるなら、教えていただきたい。

もう1つは産業の部分で、起業支援を行われている中で、どういった企業を求められているのか。農業や飲食業、IT業など色んな職種があるんですが、これから宇治市で起業していきたいと望んでいる若い世代は、どういうところでチャレンジしたいと思われているのか、この2点をお聞きしたいです。

事務局) 魅力度ランキングは、民間のブランド総合研究所が調査を行っておりまして、全国約1000市町村を対象に実施されております。消費者の評価や期待をブランドと位置付けておりまして、1つは魅力・行動、例えば観光・産品を魅力という指標と、認知・情報というところで、地域の認知度と地域のイメージという大きくこの3点を指標とされております。総合的に27位ですが、どういった部分がよかったかという事は、今手元に持ち合わせておりませんが、宇治市といえば観光、お茶が特徴ですので、先程申しました地域イメージ、地域資源の魅力の要因が大きいのではないかと考えております。起業支援についてどういうところを求められているかですが、宇治市内に色々な産業がありますが、ポストコロナ、ウィズコロナの中では、都市部以外の遠隔地でも仕事ができるということが主流になってきていますので、宇治市でも様々な分野で起業できるということが重要なことと考えております。その中で宇治市の産業戦略の中でもITやものづくりについて重要と考え方を示しておりますので、そういったところの支援を重点的に図って参りたいと考えております。

委員) まち・ひと・しごととは、資料の作り方も含めて難しい課題をひとつひとつあぶりだして、それぞれにKPIがあって長期目線で追いかけていく、その進捗をPDCAをしっかりと回していく観点で、本当に良くできているなというのが率直な印象です。KPIが置きにくいところもあると思いますが、確認しながら引き続き進めて欲しいという事が1点と、例えば5ページで人口が減って、でも子育て世代への重点的施策をこれまでやってきたから0~17歳の人口は増えているという説明ですが、重点施策の位置づけというのが、宇治市の予算の中で重点的なのか、よその行政区と比べて宇治市ではここまでやっているというようなことを重点的なのか、何と比べて、という目線があるといいのかなと思います。他と同じような施策を行って、結果17歳以下が増えているとなると結局自然態じゃないのかとなりますので、宇治ならではの施策の結果、子育て世代が増えているということをもう少しわかりやすく記載されるといいと思います。今後、宇治の独自性を確立しつつ、こういった資料の組み立てをしていけるといいのではないかと思います。

質問ですが、7ページのふるさと応援寄附のところ、先程もご質問があって、増えて

良かったという話ですが、これは ZOZO の前澤さんが 500 万円の寄附をされたと報道で見ましたが。取り組みの中で寄附額が増えたという認識でよいでしょうか。特殊要因ありきでこの数字を見ていると、一過性だという話ですし、先程ご説明があったポータルサイト云々でのやり方であれば素晴らしい効果が出ているんだと思いますので、その辺が気になったのでご質問させていただきます。

事務局) まち・ひと・しごととの取組については、施策の実現に向けて、KPI を定め、外部の方からのご意見をいただきながら評価を行い、PDCA サイクルにより取り組んで参りますので、引き続きよろしくお願ひ致します。その中で他市と差をつけていくところについては、第 6 次総合計画の中では産業振興や市民協働、子育て、子育てに優しい共生社会、ポストコロナの安全安心などを柱に掲げておりますので、まち・ひと・しごと創生総合戦略もしっかりと位置付けて参りたいと考えております。ふるさと納税のご質問ですが、前澤さんのご寄附は、1 つの寄附の件数でございます。ふるさと納税の推移の表にもありますが、金額が伸びたというだけでなく、件数自体も伸びていますので、それが特殊要因ではなく、全国の皆様から宇治市へのふるさと応援をいただいているという事で、PR やサイトの拡充の効果が出ていると認識しております。

委員) ふるさと応援寄附は、金額かと思いましたが、件数なんですね。勘違いをしていました。失礼しました。

委員) これを読ませてもらった感想ですが、事業評価報告書令和 3 年事業を受けて令和 4 年度の事業計画書のようなものは作られるのかをまずお聞きしたいです。なぜそんな事を言うかという、評価・課題の欄の評価については非常に具体的に書いてありますが、課題の方は、最後の 2、3 行の部分になると、急に表現が「推進する必要がある」のように具体性が全くなってしまうので、これは 3 年度の報告書なので、やったことを詳しく書いてあるのはよく分かるんですが、ではそれを受けて令和 4 年度は何をやるんだと思ったときに、この報告書だけではちょっと具体性に欠けると思います。上に書いてある評価のうちに、これは重点的に継続あるいは令和 4 年度新規事業を加えます、というようなことがあった方が分かりやすいということです。私はこれからの事をより知りたいと思うので、その点が気になりました。

事務局) この取組評価一覧で、指標や KPI で掲げているものは、宇治市の施策にかかる計画に合わせて設定しております。毎年効果検証をする中で、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で事業を見直しながら、KPI 等は達成したところは再度設定し直して進めております。事業計画はそれぞれの施策の中で策定しております。地方創生という枠の中で、まち・ひと・しごとを進めていくにあたって、それぞれの基本目標に応じて評価を行っておりますので、今ご意見いただいたところは、より分かりやすい作り

方を考えて参りたいと思います。

委員) これは市民に公表されるものなんですか。

事務局) 本日ご意見をいただいたものを、この後、宇治市議会でもご意見をいただきまして最終的に成案として公表させていただいております。

委員) 今年度の具体的な内容を盛り込んでいただけるように期待しています。

委員長) 今のご指摘の部分につきましては、私からも意見ですが、どうしてもこういう評価の報告書というのは、実際にまとめるのが次年度の半ば頃になってしまい、評価を行う頃には既に今年は半分以上過ぎていくということになって、結局評価があまり活かされないということが、一般的によくあることだと思います。この報告書も最終的に成案がまとまった段階で、評価結果あるいは課題の指摘を各部署で検討していただくということを、5年度に向けてでもいいので、ある程度仕組みとして組み込んでいただく大変ありがたいと思います。

委員) 5ページの社会動態、子供が増えているということは、宇治市の子育てにやさしいまちづくりの効果が出ていると思いますが、一方で子供がこれだけ増えていながら、子供だけで転入してきませんので親世代が減ったまま、ということは要は子供がいない単身のその年代の方が大きく出ていっているのではないかと想定されますので、しっかり分析すれば割とターゲットは絞りやすいんじゃないかという気がしております。子育て世代が来るのは非常に良いんですが、単身の働き盛りの若い方が出て行ってしまふのは残念ですので、その点施策でご検討頂けたらと思います。

1点質問ですが、16ページの昼夜間人口比率、平成27年から令和2年で30ポイント余り上がっていますが、こういう数字って普通あまり変わらないので、何か特段の要因があったのかどうか、教えていただけたらと思います。

事務局) 人口動態に関して貴重なご意見をいただきありがとうございます。例えば単身であれば就職に注目して雇用機会の創出や支援を重点的に行うなど、状況を分析して的確な施策を考えて参りたいと思います。ご質問の昼夜間人口比率に関してはRESASの集計からでているものですが、基準年の平成27年から令和2年に大きく伸びているところはどういった状況で伸びているのかを把握しておりませんので、調べて把握に努めたいと思います。

委員) 子育てサークルに参加されているお母さんから「新鮮な野菜はどこで買えますか」という声があって、檜島で作っておられる万願寺唐辛子をお渡ししたら、子供達がか

ぶりついて食べたんです。皆さん唐辛子って辛いイメージがあると思いますが、万願寺唐辛子は甘くて子供達そのままかぶりつくんですね。それくらい地元にはおいしいお野菜を作っておられる農家さんがあると知ってお母さん達がびっくりしておられたので、これから農業というものが、もしかしたら 1 つの魅力になるのかなと感じたことを思い出しました。先日市長が農家の方と意見交換をされたと聞きましたが、若い世代のお母さん方がすごく健康意識が高くて、新鮮な野菜を食べたいと思っておられるので、近くに農家さんがたくさんあるし、直接食べていただけるような機会があればいいなと思うのと、若い農家さんが頑張っておられるイメージがありますが、これから宇治市として農業をどんなふうにご考えておられるのか、教えていただきたいです。

市長) 先日、農業をやっていらっしゃる青年の方々と意見交換をさせていただきました。大変熱い思いで、宇治で農業を積極的にやっていきたいというご意見もいただいている中で、直に売れるところをご希望であったのは事実です。若い方々の雇用の場ということで、産業誘致というものを掲げており、併せて農業施策を進めていかないといけないと思っております。若い方々との意見交換もその一環としてしております。宇治市というとお茶のイメージがありますが、農業、農作物のイメージはお持ちではない方が多くて、宇治市外から転入して来られた子育て世代の方々にも、宇治の中で農業をやっていらっしゃるという事はしっかりアピールして取り組んで行けたらと思っております。

委員) 万願寺唐辛子を 2、3 歳の子がまるかじりしていたのが感動したんです。もっと地域で作っている農産物があるということを知っている若い人達だけでなく、私達皆が、知る機会があればいいなと思いました。

委員) 産業戦略のお話がありましたが、13 ページの誰もが活躍できる行政社会づくりの中の、女性企業家支援と唱っているここからチャレンジ相談件数が令和 2 年から 3 年に飛躍的に伸びていて、この相談件数の中から実際に起業された人数が分かれば教えていただきたいです。昨日 NHK の移住の番組を観ていましたら、子育てしやすい環境を非常に重要視されていたんですが、子育てするためには経済的な基盤もいるということで、ちゃんと経済的基盤が作れる、働ける土地がいいということだったんです。そこで過疎化している地域を例に挙げていらっしゃるって、高齢化で伝統産業の担い手がいなくなったり、農業で高齢化して耕作地を放棄してしまったところを、都会から移住して来られた方になっていただき、2 年間くらいは指導者としてお年寄りが無償で支援して下さる仕組みができているということだったので、そうしたことも宇治市でどのような取り組みをされているか、お伺いできたらと思います。

事務局) 女性の起業支援、ここからチャレンジ相談支援の中で、実際に起業につながった人数については把握しておりませんが、内容的には起業カフェを開催して様々な分野でチャレンジする女性を支援する相談を行っております。特に女性にフォーカスしたセミナー、チャレンジ、相談に力を入れております。

事務局) 産業の面では、後継者でお悩みのところはたくさんございますし、コロナの中で家業を残念ながらたたんでいかれる方もあります。その一方で宇治市でも新たに創業してみようという方がたくさんおられることも事実ですので、商工会議所さんとも十分ご相談をさせていただいて創業支援施策を色々展開しています。毎年多くの申請をいただきながら、新たにお店を出されるなどありますので、市としては若い方の支援、応援をしていきたいと考えております。

委員) 17 ページのお茶と宇治のまち歴史公園来館者数、令和 6 年度の目標が 115,000 人、すごく期待されている施設だと思います。最近あったことですが、高校生の料金徴収を誤っていたと、市側が損をする方の誤り方なので、それを問題視するものではありませんが、うちの記者が取材をした時に、来館者数について質問をしたら、令和 3 年の 8083 人は出てきたんですが、今年度に入ってから 4、5、6、7 月の数字は「分からない」という返事だったらしいんです。ということは半年まとめか 1 年まとめぐらいにしか数字を上げていないのかと、こっちは思うわけですが、ここまで期待している施設なのであれば 1 か月毎くらいの数字はきちんと共有して、どうやって来館者を増やしていくか、まさにこの計画に沿って検討されるべきだと思うのに、3 年度の数字しかありませんというのは、ありえないなと思いました。僕が直接取材したわけではないので、行き違いがあれば申し訳ないのですが、せめて今年 6 月末までの入場者数と、そのうち間違っって子供料金で入った高校生の数が知りたかただけなのに、その数字がない、まだ分からないという返事だったので、その時驚いたことと、この目標値が重なったので、言わせてもらいます。

市長) 大変申し訳ございませんでした。高校生の件については券売機で購入されるので、小中学生と高校生以上という分け方しかできませんので、高校生だけ何人かと言われると分かりません。公園全体が宇治だけでなく山城地域全のお茶の入口と捉えておりますので、ご指摘の点についてしっかり対応させていただきたいと思います。

委員) 今後の方向性の中で、海外留学生や海外就労者の受け入れを非常に重視されている市町村もありますが、宇治市であれば以前から商工会議所さんでワーキングホリデーなど、海外から宇治へ来られた方が最近では SNS で宇治の発信をさせていただいている状況がある中で、宇治市として今後、ポストコロナの時に受け入れ等について、支援や施策のお考えをお持ちでしょうか。

事務局) 策定の時にも共生社会という考え方についての意見もあったと思います。実際に就労されている方もいらっしゃいますし、大学の関係で宇治にお越しにいたっている学生さんもおられる中で、こういった施策を打っていきけるか、十分検討できておりませんが、そういった意見も含めて施策の検討を行ってまいりたいと思います。

委員) お茶と宇治のまち歴史公園について厳しいご指摘がありました。市民の立場からフォローするわけではありませんが、私達にとっては、緑も綺麗で宇治茶もあつたり、宇治の中で楽しめる場所が増えたという印象があつて、マルシェも定期的に開催してくださっているので、市民にとっては新しい憩いの場所になっています。

委員) 昼夜間人口比率ですが、どう見ても違和感があります。平成 27 年の観光入込客数と、一番多い時と比べてもそんなに変わっていない。令和 2 年なのでおそらく感覚で言えば、学校がお休みか、リモートだったかだつてこういう数値になっているのかと思います。それはまた分析頂ければと思いますが、そうすると評価の書きぶりがかなり変わってくるかと思いますが、そこは数字をしっかりと捉えて検証をお願いしたいと思います。

委員長) 色々ご意見ご質問をいただきまして、これから最終的な検証など、取りまとめていかれますので、その中で参考または反映していただければと思います。

《事務局より閉会の挨拶》

6. 閉会